

ひととき

第3回

わたしのお気に入り

藤井砂緒里



人生の縮図?

体温を測る3分、カップ麺を待ちながらの3分……。そんな時間を楽しみながらかかるかしら? などと考えながら3分トボガンを購入しました。

このおもちゃと出あつたのは数年前の初冬。おもちゃコンサルタントの仲間にデパート販売員を頼まれた時のことでした。クリスマスに子どもによいおもちゃを贈りたいと願う人たちに交じつて、展示商品をくまなく見て回った際、特に気に入つて購入したのでした。

3分トボガンは、ビー玉が七つの円皿を順に転がり下りてくるおもちゃです。一番下まで落ちるとストッパーが外れ、出番を待つていた次のビー玉が転がり始めます。そうやって付属の七個の玉がすべて転がり落ちると約3分。それゆえ、ついた名前が「3分トボガン」(トボガン)はチエコ語でらせん状のコースターを意味します)。

ところが実際に遊んでみると、子どもはビー玉が一つずつ下りてくるのを待てません。一気にたくさんのビー玉が途中のお皿で大回りをしたり小回りをしたり止まりそうになつたりと、いろいろな様子で落ちてくるのを見るのが大

3分トボガン

チェコHEDA社

ヨーロピアン・ピーチ材を使用

日本の輸入元は「中欧の木のおもちゃ屋がんぐるう」

www.gangroo-i.com

(写真左: 横から見たところ・右: 斜め上から見たところ)

〈プロフィール〉

おもちゃコンサルタント（「東京おもちゃ美術館」運営団体「NPO 法人日本グッド・トイ委員会」認定）。児童館に勤務するかたわら、ボランティアでおもちゃを介しての子育て広場などを主催。

好き。そのうち、付属品以外のビー玉も落とし始めました。実際に子どもたちと遊んでみて、色柄の違いで各ビー玉

の動きが明確になり、それでわかつことがあります。必ずしも、一つ目の穴をいつとう先に通過した玉が早く下に落ちるわけではなく、かなり後から出発した玉が一着で最下段にたどり着くこともあるということです。

子どもたちが何度も何度も遊ぶさまを眺めているうちに、それまで気づかなかつた世界が私に見えてきました。転がるビー玉が人の一生と重なつて見えてくるのです。学校、就職、結婚、出産——それぞれの円盤は人生のステージ。それらのチェックポイントを各人（ビー玉）なりのあり方で通過していく……。

学校を出て働き始めたまでは順調だったわが人生ですが、その後は困難に出あい、心が折れる経験をしました。3分トボガンのビー玉の動きを見つめ、ストップバーが外れビー玉が入れ替わる時の「カタン」という音を聞いて、「人生で大切なのは生きて死ぬこと、次の世代に命をつなぐこと。自分なりのベースでいけばいい」ふと、そんなふうに感じることができ、当時悩んでいた気持ちが少しだけ軽くなつたのでした。

